

Iメイト便り Iメイトって? Internet, 愛, (出)会いのアイ

今回のIメイト便りは、交流を始めてまだ1年に満たない2組です。それぞれの交流を読ませていただいて、感動しました。どれもすべて載せたかったのですが、文字数に限りがあり、短くまとめるのが大変でした。奇しくも、この2組の文に、新旧の先生のこと書かれていました。アジ風が送った風が生きて吹いていると感じます。うれしいですね。(ハノイ貿易大学Iメイト交流コーディネーター 杉本典子)



坂巻延子さんと チャン・ティ・キエウ・チンさんのメール ☆チンさん→坂巻さん (8月24日)



坂巻さんメール、ありがとうございます！  
今晚、私はVJCCセンターでコースの選定試験に参加したばかりです。このテスト問題もよりやさしですから、高得点を獲得することを希望します。VJCCセンターは日本語を勉強として有名です。ここで復習ができますと、いいです。

新しい日本語の先生はハノイに7年住みました。先生はとっても熱情です。そして、全部の学性に愛敬されています。あ、日の7月はベトナム人のカレンダーによつて、今は7月です。ベトナムでカレンダーは2種類があります。西暦や別にベトナム人の自分で考えるカレンダーです。伝統的な祭日はこのカレンダーによつて行つて。スコールは雨です。でも、それは長く続く小糠雨です。日本でもありますか。

来週、ベトナム人のとても大切な祭日がある。それは国慶節です。つぎメールに解説してあげますね！ では、チン

☆坂巻さん→チンさん (8月24日)



チンさん メール、ありがとうございます。  
ベトナムに2種類のカレンダーがあることは初めて知りました。現在日本で使われているのは新暦(しんれき)といつて、明治時代に作られました。それより前は旧暦(きゅうれき)が使われていました。今は旧暦をそのまま使うことはありませんが、地方によっては、行事(ぎょうじ)などは旧暦で行うこともあります。

日本に「スコール」はないと思います。雨の季節は6月から7月にかけての「梅雨(つゆ)」です。毎日、雨が降り続きます。この時期は「あじさい」の花が咲きます。とてもきれいな花ですが、ベトナムにもありますか？

新しい先生とたくさん日本語を勉強して下さいね。では、さかまき

下村典子さんと チン・ティ・テュ・ホアイさんのメール ☆下村さん→ホアイさん (6月27日)



・増本先生の送別会のメールを受けて  
ホアイさんメールありがとう。私も元気です。学生は、夏休みが嬉しいですね。ふるさとの家族に会えることも楽しみですね。家へ帰って、のんびりして(relaxして)くださいね。

私も 増本先生が日本へ帰国したと聞きました。増本先生はとっても良い先生です。みんなお別れが悲しかったでしょう。でも、またいつか会えると信じて、希望をもちましょう。新しい先生のお話も聞かせてくださいね。

「窓際(まどぎわ)のトットちゃん」は、私も読んだことがあります。とても楽しい本でした。ホアイさんの住所を教えてくださいませんか？本を送りたいと思います。下村 典子

☆ホアイさん→下村さん・本のお礼 (7月23日)



下村さんへ  
下村さんからの贈り物をもう貰いました。嬉しかったです。本当にありがとうございます。

その日にお母さんははじめ小包を貰いました。お母さんはびっくりしました。なぜ日本から小包を貰いかと言いました。その後私はお母さんとお父さんにNPOとIメイトと下村さんを紹介しました。家族は感動して「ありがとう」という気持ちが下村さんとIメイトの皆に伝えたいです。お父さんは「僕たちは田舎の人で日本が少し分かるけどあんたの話から日本人の気持ちを感心していますよ。あんたはさいわいだと思います。日本人の友達と先生はあんたに色々なことを手伝ったり応援したりしています。だから、あんたの街道をあんたの自分で決めるけど、皆にあんたを信じてもらって、必ず途中で夢をあきらめてはいけません！ちゃんと勉強してください！あんただけためじゃないの！」と言ってもらいました。お父さんの話を分かって、私はもっと努力したい気持ちを持ちました。ホアイより

・・・編集後記・・・

日本の女性映画監督が「Sense of Home」との題で世界の映画監督に東日本大震災について感じたことを3・11に因んで3分11秒の映像で表現するよう呼びかけたところ21ヶ国から作品が寄せられました。それらの監督が映像を通して訴えたことは東日本大震災が日本だけの問題でなく世界全体の問題であること、人は自然の前に謙虚であるべきこと、そして人と人との連帯、家族の絆の大切さでした。アジ風の大槌町へのボランティア活動も正にこのことの実践で、参加した留学生を含むみなさんが得たものは大きかったと思います。

(新井 雅志)  
9月末に清華大を訪問してきました。日本語科の発展は目覚ましく、国際クラスには、韓国人、アメリカ人、ロシア人も在籍しているそうです。中国人学生の間で、アジ風の評価は草の根の異文化交流としてしっかりと根付いているのを感じました。ひとえにIメイト会員のみなさんのお蔭です。(上 高子)

3月の大震災に続き、今度は台風12号、15号が日本各地を襲いました。自然の脅威をいやというほど思い知らされた年になりました。普段の何事もない生活がいかにかかりたいかを実感しました。恵みの秋、台風被害が少ないことを祈ります。(藤原 玲子)  
この度アジ風新聞編集のお仲間に入らせていただくことになりました。すてきな何かを受発信できるように心を澄ませて暮らしたいと思っています。どうぞよろしく願います。(森 郁子)

在日中国人の生活全般をサポートする FeiNET

日本初の外国人向けプロバイダー FeiNET (フェイネット) だが今FeiNETでNTTフレッツ光を申込むと、プロバイダー料金が3年間無料になるキャンペーン実施中。その他、通信(インターネット回線、携帯電話)の代理販売、パソコン等の販売、クレジットカードの発行、保険のコンサルティングなどを行っています。  
http://www.feinet.jp/  
アジ風の活動を支援する法人会員です

認定NPO法人 アジアの新しい風

第33号 2011年 (秋)

今年の日本は3月の東日本大震災に続いて、9月の台風12号による和歌山県、奈良県の大水害と未曾有の災害に見舞われました。9月4日のアジ風第9回総会も西日本を襲った台風の影響が心配されましたが幸い晴天に恵まれ、会場の青山荘には、昨年を上回る76名の出席があり、アジ風の発展を示しました。今年も司会者は、流暢な日本語の中国出身の張慧さん。このたびアジ風会員の日本人男性との結婚を自ら公表しました。両文化の懸け橋になることが期待されます。

総会では、高齢のため10年度をもって退任された林雄二郎前理事長に代わって、上高子氏が理事長代行に就任の挨拶と林前理事長への謝辞がありました。次いで奥山理事を議長に選出して議事が進行しました。出席各役員の紹介と挨拶に続いて上事務局

長から10年度の活動報告と11年度の事業計画、会計担当の松島さんから10年度の収支決算報告、11年度の収支予算の説明、中村監事からの監査報告があり、以上すべて承認されて総会が終了しました。

総会に続いて講演会は、慶応大学教授の中村伊知哉氏を迎えて「外国の若者を魅了する日本のポップカルチャー」と題して行なわれました。中村教授は在日外国人から見た日本をトクするNHKテレビ番組「クール・ジャパン」に出演



(総会の様子)

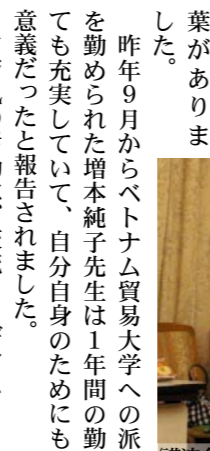


(中村伊知哉講師)

して、お茶の間でもお馴染み。先生は元Iメイト学生で日本人と結婚したアジ風Iメイト国際結婚第1号の福山(旧姓・朴)阿英さんでした。京都ご出身の中村先生は和服姿で登場。かつて「ジャパン・アズ・ナンバードン」と紹介され経済大國だった日本が、経済の面では苦境に立たされたところ、日本のまんが、アニメなどのポップカルチャーが各国の若者をメインに世界を席巻していることを映像とデータを示して興味深く紹介されました。比較的高齢層のアジ風会員があまり知らないところで日本のポップカルチャーが世界で受け入れられていることは、世界に通用する日本の新しい力として生かすべきだと教えられるました。講演のあとは先生のサイン入り著書「日本のポップパワー」3冊が、先生の誕生日に一番近い人、福島県出身者、メディア関係者の3人の方に先生から渡されました。

恒例の懇親会に移り、先ずはじめ

に「Iメイト・オブ・ザ・イヤ」の発表。過去1年間アジ風のイベントにすべて参加されかつメール交流活動が活発だった正会員のなかから杉本茂樹さんが選ばれ上理事長代行から表彰状が手渡されました。  
次いでゲストとしてご来場のベトナム・ハノイ貿易大学から滞日中のお二人、タオ先生とフオング先生が紹介されました。お二人を代表してタオ先生からハノイ貿易大学日本語学科に対するアジ風の支援へのお礼の言葉がありました。  
昨年9月からベトナム貿易大学への派遣教師を勤められた増本純子先生は1年間の勤務がとも充実して、自分自身のためにも大変有意義だったと報告されました。  
アジ風の活動は、交流コーディネーター、留学生世話役、新聞編集、会計などボランティアの協力で支えられています。ご出席のみなさんは藤原理事から紹介し、貢献へのお礼を申し上げます。  
アジ風は6月4・5日の2日間、東日本大震災で大きな被害にあった被災地・岩手県大槌町へボランティア活動に行ってきました。このボランティアには上事務局長をリーダーとして18会員のほか12名の留学生、元留学生が参加しました。その様子を会員の杉本茂樹さんがビデオ撮影し編集したものを放映。炎暑の中で休憩もそこそこに震災の後片付けに汗を流した参加者避難場所でお年寄り顔と顔を突き合わせて語り対に元気を貰った留学生、会員のUさんが歌った「ふるさと」に涙ぐむ被災者。映像に参加した留学生チャン・トウ・チャンさん、新入会員上野睦美さんの報告に感動しました。  
茶菓でのささやか懇親会でしたがアジ風の活動への新たな意欲をかきたて、お互いの連帯感を高めた有意義な会となりました。当日多額な寄付金を頂きました。感謝申し上げます。



講演会で挨拶をするタオ先生 貿易大日本語教師、横濱国立大でインターン中

中村先生の講演要旨

「フランスに行きたしと思えど・・・」と萩原朔太郎が歌った100年前、フランスは世界の文化の中心だった。その後アメリカに移ったが、今は日本か？フランスでは、特に若い女性たちの間で、日本への憧れが沸騰している。  
フランスに限らず、日本のポップカルチャーへの世界の目は「クール(かっこいい)」と評価され、ようやく日本人は「外からみる日本」を認識し始めた。ハラキリや特攻隊など闘う国のイメージから、トヨタ、ソニーなど経済強国のイメージへ、そしてピカチュウやスーパーマリオで知られるアニメや漫画などのポップな日本。これまで取り締まりの対象であったコンテンツを、政府までが世界に発信する新しい文化として取り組み始めた。  
今や、情報コンテンツを超えて、宅急便や給食に至るサービスシステムなど、日本人のライフスタイルそのものに世界の目が注がれていると言っても過言ではない。これらは、インターネットや携帯で発信されるものが大きく作用しており、日本の若者の情報発信が、パワーシフトまでもたらしつつある。

Iメイト・オブ・ザ・イヤ  
10年度の「Iメイト・オブ・ザ・イヤ」は、杉本茂樹(写真)さんが選ばれました。04年に入会、交流校訪問を全て体験、09年度の留学生支援のボランティアで世話役を担当されたほか、学生とのIメイト交流が数多く公表されました。去る6月の被災地ボランティアでは、岩手県大槌町への橋渡しも。  
総会や交流会でのビデオ撮影、編集、放映のボランティアも買って出て、「趣味の一つであり、楽しみでもある」と事務局の強力な助っ人です。上理事長代行から、表彰状の授与と、当日の講師の著書「日本のポップパワー」がサイン入りで贈呈されました。



(杉本茂樹)

「世界の若者を魅了する 日本のポップカルチャー」を聞いて

坂本竜馬の衣装で来場なさった中村伊知哉先生、私たちに視覚で旬のポップを伝えていただきましたが皆さんお気づきになられたでしょうか？日本のポップカルチャーに魅了された外国人の一人として、中村先生の話しは「うん、そうそう！そうだよね！」と共感するところがたくさんありました。「昔の日本は外国人にとって「腹切り、神風」の印象が強かったし、その後はもの作りの世代であってソニー、トヨタ、ホンダなどが名を知られたが、今の若者に日本の印象を聞くと、ドラゴンボール、スーパーマリオと言ったクールジャパンになっている」と中村先生はおっしゃっていました。それはまさに私が思っていた日本のポップカルチャーでした。しかし、このような定番のものだけではなく、日常にもクールなジャパンがたくさんあつたのです。例えば「留学生たちに自分の国に持って帰るとしたら何が欲しい？」と聞くと思ってもよらない「マッサージチェア」、「ママチャリ」など、我々日本人にとっては何の変哲もないものだったりするんですよ。」との話を聞いたとき、私は「そう！私もそう思っていた！自転車にライトをつける習慣も持って帰りたい！」と心の中で叫んでいました。しかし、こんなに人気のある日本のポップカルチャーをどのようにしてビジネスに繋げていくのかについてもっと詳しい話を伺いたかったのですが、時間の関係でできなかったのが残念でした。

家に戻ったら、テレビで「ジャパン・アニメミュージック・フェスティバル2011がバンコクで開催」とのニュースをやっていました。日本から訪タイしたアニメソングを歌う5人のシンガーは、タイのアニメファンから熱狂的な声援を受けたとのことでした。しかも今回のバンコク公演は慈善事業の一環で、収益金の一部はタイの貧しい子供たちと東日本大震災の遺児に贈られるそうです。すでにこのような素敵な形で世界ビジネスになり始めていたのです。 (イメイト交流コーディネーター 福山阿英)

「がんばれ日本！」——タマサートより

7月23日、泰日教育財団は「日本震災被災者の皆さんを励ます、タイ人全国日本語スピーチ大会」を開催しました。イメイト学生のパナさん(イメイト会員は坂上勝朗さん)はこれに応募して、タマサート大学2名に選ばれましたが、残念ながらもう一名の学生が選ばれて、全国に放送されました。パナさんのスピーチ原稿も、日本への思いに溢れていますので、ここに掲載いたします。



(パナさん)

こんにちは、私はタマサート大学の学生代表のパナと申します。日本とタイとの交流は約120年たちました。日本は昔からずつとタイを経済的に援助してくれて、技術的にも支えてくれていて、ありがたいものです。その上、タイ人が困った時こそ日本人がすぐに手をさしのべるのが真の友人だと心で意識しています。ですから、日本とタイ人の関係がますます深まって、兄弟の国のような関係だと考えています。ところで、今年の3月11日に日本では東日本大震災が起きました。ニュースによると、住んでい

た家屋が津波によって流されたり損壊したただけではなく、人々の気持ちにも大きな影響を及ぼしているとのこと。そして、大勢の人が避難生活を送っているそうです。また、生徒たちの十分な栄養確保が大きな問題になっているとのこと。私はそれを聞くと、同情を禁じ得ませんでした。早く復興が進むようにと願わずにはいられません。私はテレビで生きる希望さえいなくなった人を見ましたが、切ない気持ちになりました。それでも、今はもう過去を振り返らないで、ただ前進あるのみだと考えてほしいです。私は信じていかなければいけません。それは人はどんなことがあっても、生きていかなければいけません。一生懸命頑張って生きていけばきつと必ずいいことがあるということです。日本はまもなく復興できて、再び明るい日々が始まると思います。なぜなら、日本人は積極的で、何も負けてくなくて、気持ちが強いタイブだからです。それはこの世に一つしかない桜のように、冬の寒さにも強い風にもうちひしがれないように毎年頑張って美しい花を咲かせています。タイには、「雨の後には、今よりずっと青く見えた空」という諺があります。私は皆さんが希望を持って、その日々を一緒に待つてほしいです。 (タマサート大学学生代表 パナ)

ヴェトナムの中秋節

藤原美代子先生

旧暦八月十五日(今年は九月十二日)は中秋節でした。八月後半にさしかかったある日突然、今まで何もなかった歩道に臨時の月餅屋が出現して、今年も中秋節が近いことがわかりました。

ベトナムも昔は中秋節と言えは月を眺めてその色合いによって豊作かどうかを占ったりしたそうですが、今は月餅を贈りあったり、先祖に月餅やザボン、バナナ、シヤカトウ、柿、パイナップルなどの果物をお供えする以外は「子供のお祭り」としてお祝いしています。ですから、中秋節が近づいたころには、街やデパートでは大きなおもちやの包みを抱えた親子連れをたくさん見かけます。

ベトナムの人は普段からとても子供をかわいがって大切に育てているように見えます。子孫繁栄を願う先祖に感謝した農耕社会の風習が「子供二人政策」になった今は、少ない数の子供への「愛情の集中」となっているのでしょうか。

中秋節の行事としては、子供たちの提灯行列や獅子舞いなどがあると聞いています。旧市街に住んでいるので、夜見学に出かけようと思っていたのですが、残念ながら当日は雨でいろいろな行事が中止になりました。学生からももらった月餅とベトナム語の先生からいただいたザボンで雨の中秋の夜をお祝いしました。翌日、歩道の月餅屋はすっかり片付いていました。



<デパート前の歩道上の月餅屋三軒>

(ベトナム・貿易大学派遣教師)

二ハオ！北京は今が最もいい季節

馨村文乃先生

青い空の下、太陽の光が緑溢れるキャンパスを照らし、行き交う人々が生き生きと輝く、絵に描いたような風景が見られます。清華大学では、あちこちに掲げられた「熱烈歓迎2011級新同学」の垂れ幕、軍事訓練にいそむ新入生の姿が新学期の訪れを告げ、中秋節翌日の9月13日より授業が始まりました。1限8時始まりの自転車ラッシュに圧倒され、不安と期待を抱き、教室に向かったその日から、早2週間になるうとしていきます。

今学期担当するのは、2年生の「基礎日本語」と「聴解」、第一外国語のクラス。2年生は中国人学生班と留学生班に分かれています。留学生の2年生は全員韓国人とあって、東アジアの日本語教育の新たな展開を感じます。東アジアの域内で、それぞれの国の言語を学び合う、そんな時代になつてきたのかも知れません。



<清華大学キャンパス新入生を迎える風景>

今は授業準備に追われる、気ぜわしい毎日過ごしていますが、10月1日〜9日までは国慶節のお休み、いわゆる「秋のゴールデンウィーク」。日本で、4月に新学期が始まったら、間もなくゴールデンウィークを迎えるのと同様、中国でも一休みできる期間がある訳です。教師も学生も心待ちにしているプチ秋休み。しばし「金(錦)秋北京」を楽しみたいと思います。 (中国・清華大学派遣教師)

タマサート大学の制服

三角友子先生

日本では制服のある大学は珍しいですが、タマサート大学では制服があります。男子学生は黒のズボンにワイシャツ。たまたま黒のネクタイを締めている学生も見かけます(日本では葬式用ですが)。女子は紺のスカーツに半そでブラウスです。ブラウスは開襟シャツで、これがなかなかスポーティで可愛い。制服着用率もけっこう高いです。

女子のスカーツ丈とデザインは、人によってかなり違います。写真をご覧ください。まず、左は、標準丈のひだスカーツです。真ん中の写真は、「オシヤレ系」の学生で、スカーツは当然ミニのタイツです。これで自慢の足がアピールできます。右の写真のスカーツ丈は、「個性派女子」に多いかもしれません。長いのが流行りはじめているそうです。でも、この長いスカーツ、私にはどうしても昔のスケパンを連想させます(完全に年齢がばれてますが)。なぜ、一流大学タマサートに、「まるでスケパン」が闊歩するのか、何となくしっくりきません。でも、モデルの学生は、「長いスカーツは、足の日焼け予防になる」と言っています。そう考えると一応納得なんですけどね。



モデル：左から タナポーンさん(イメイト)、サンハタイさん(イメイト) クリッチャカーンさん 写真撮影：ニッチャカーンさん

全員日本語学科の3年生です。(タイ・タマサート大学派遣教師)

会員紹介

今回は法人会員で、昨年6月に入会の「PIC・BIO」(ピーアイシー・バイオ)社長・奥村由巳さん。安全な農畜産物生産のコンサルタンとして国内だけでなくアジア各国に呼ばれるなど海外活動が多い。先月下旬のインタビュも、インドから帰国直後と多忙で80歳にして堂々たる現役だ。アジ風への入会の動機を聞いた。

「私が参加している異業種交流会で、ゲスト講演したアジ風の上さんの話を聞いて、初めてアジ風を知った。東南アジアの国々と仕事をしているが、各国とも本場の日本を知らない、いつも感じていた。日本語を学ぶ子(若者)がいればいいな」と思っていた。そんな時、アジ風の活動を知った。語学を学ぶことを通じて、その国を知ることが素晴らしい。アジア各国の大学の日本語学科の学生と日本語で交流、学生たちの手助けをしていることは素晴らしい、と思つて」と、その場で入会を即決された。その後、積極的にアジ風の活動に協力して頂いていることは皆さんご存知ですね。



奥村由巳さん(文系)を卒業した後、横浜近郊の実家が農家だったこともあって、養鶏を始めます。終戦後間もない頃、当時、農村では若者を中心に4Hクラブ運動(農村改革運動)が起き、奥村青年は積極的に活動した。米国は養鶏を産業と位置付けていた。その養鶏法に傾倒して原種鶏農場を立ち上げ、ヒヨコを出荷した。抗生物質漬けだったブロイラーの改良にも取り組み、それに代わる生菌剤使用を提唱。現在、国内だけでなく韓国、台湾、タイとの取引が続く。養鶏だけでなく畜産、野菜など農産物全般に化学薬品を使わない抗酸化物質(フミン)の製品化に成功、今、そちらに熱が入る。

最後にアジ風への期待。「皆さん熱心になつておられる。国際親善に役立ってもらいたい。国がやることは別に、それこそ草の根の輪が広がれば、と思います」。 (インタビュアー 編集ボランティア 園木宏志)

ボランティア紹介

ボランティア、有難うございます！アジ風の活動はボランティア会員によって支えられています。

今年は留学生支援ネット担当伊達和人さん、藤原ひさ子さん。会計とデータ管理担当松島沢枝さん。イメイト交流コーディネーター 杉本典子さん、井村倫子さんに加えて、新人の福山阿英さん。アジ風新聞の編集員、森郁子さんの皆さんです。



<イメイト交流コーディネーター 福山阿英さん>



<アジ風新聞編集員、森郁子さん>

アジ風からの30名は、6月4日〜5日に、被災地の岩手県大槌町へボランティア活動に行きました。安渡小学校の講堂に避難している人たちと語り合ううち、「何もかも流されて、アルバムがないの」と新聞の取材などでもらった写真を、封筒から出して見せてくれた小国ヤスさん。会員の古澤サヨ子さんの知り合いの会社から、大判のアルバム5冊、ミニアルバム200冊、寄贈いただきましたので、訪問時に写した写真や、参加者の励ましのメッセージを添えて、避難所の皆さんへ送りました。

大槌町からお礼状が届きました。 (Text of a thank-you letter from Otsuchi Town)